

神幸祭 巡行路



神幸祭 巡行路の見方

- 午前巡行路 (Morning route)
- 午後巡行路 (Afternoon route)
- □ 鳳雛・神輿受け渡し場所 (Transfer points for Hanyu and Mikoshi)
- 00:00 巡行予定時刻 (Scheduled departure time)
- 結 氏子総代献饗 (Offering by family representatives)
- 着饗時刻 (Arrival time) 発饗時刻 (Departure time)

【両国旧御仮屋】

神田祭の神幸祭を数日かけて行っていた頃、一時、鳳雛・神輿が留まる場所として両国(当時の日本橋区両国米沢町)に仮に建てられた小屋があった。現在は同地で昼御饗という祭典を行っている。

【将門塚】

古 代に活躍した平将門公の御首を祀る。現在、日本最大のビジネス街・東京都千代田区大手町に位置する。将門公が天慶の乱により没し御首は京都へ運ばれ、その後、所縁の者たちが東国へ持ち帰り塚を築いた。そして月日が流れ、塚が荒廃し天変地異が頻発し疫病が流行して周辺に住む村人たちを苦しめ、将門公の御神威として恐れられた。そこに東国廻国中の時宗遊行僧・真教上人が立寄り村人たちに乞われ将門公の御霊を供養し『蓮阿弥陀仏』の法号を授与した。これにより天変地異がやんだという。上人は塚の近くに芝崎道場日輪寺を開基。その後、将門公を延慶2年(1309)に塚に程近い神田明神に合祀し村の鎮守とし、以降人々により手あつく祀られ今日にいたる。現在、神田明神と周辺企業よりなる「将門塚保存会」を中心に保存管理がはかられ、毎年9月彼岸に将門塚例祭も行われている。東京都指定文化財(都旧跡)でもある。